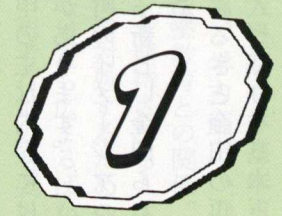


カナダ



Jan.

あなたのにゅーたうんKANADA

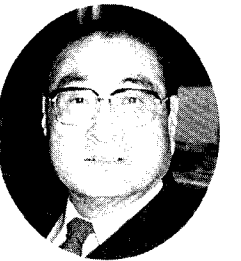
迎春

——新しいまちづくりに向かって
力強く飛び立つ「金田町」

(金田町の飛躍を期待するかのよう飛び回る彦山川のカモの大群)

新春を迎えて

町長 大島 陸雄



新春を迎え、皆様方の健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

金田町の活性化について、昨年六月住民代表によって結成されました「活力あるふるさと振興協議会」の答申を受け、いよいよ今年はこの答申に肉を付けていただき、実施に向けて努力していきたいと決意を新たに致しております。

この肉付には、住民代表20人、職員代表11人によって「ふるさとカナダまちづくりプロジェクトチーム」を結成し、現在、その実施計画の策定を進めていただいております。

答申の主な内容には次の三つがあります。
一、町のイメージアップによる新しい金田らしさの創造
二、ふるさと金田の再発見
三、人とづくりを基本とした文化・教育・環境など

フット面による新しいまちづくり事業の推進
一、商工業・農業の抜本的基盤整備と工場団地造成などハード事業の推進
この三つを柱として金田町の活性化に努めていきたいと思います。

町の活性化は、何といても町民の皆さん方が健康でなければなりません。そのためにも、健康増進に必要な施設の充実を図りながら、子供から老人まで誰もが楽しめる各種スポーツの振興に努めたいと考えております。完成間近の「金田公園」(仮称)がスポーツとみどりの公園として、皆さん方に親しんでいただくことを願っています。

また、金田町のイメージアップの一つとして、花とみどりの推進に努めるとともに、彦山川、中元寺川、泌川の環境美化を進めていきます。この三つの川のそれぞれの特色を生かしながら花やコイ、フナ、サケ、シジミの放流を今後も続けていきたいと思っております。今では、カモや白鳥、白鷺が住み着くようになり、昨

年はサケも彦山川にのぼって来ました。
金田町がこうした自然環境を創りながら、健康で明るい町へと変身していくことを願ってやみません。
どうか今後も、金田町活性化のためにお知恵とご協力をお願い申し上げます。年頭のごあいさつと致します。

年頭にあたり

議長 属 公弘



平成四年の年頭にあたり、金田町議会を代表しまして新年のごあいさつを申し上げます。

町民のみなさん、明けましておめでとうございます。ここに、希望にあふれた皆様のご壮健とご繁栄を心からお祈り申し上げます。さて、昨年五月の町議会議員改選後はじめての臨時議会を皮切りに、私達はその重責を痛感し、新たな決意のもと行政より提案されました各議案を徹底審議し、金田町の発展のため懸命に努力してきました。



新年を迎えて

教育長 田中 貴美男

「月日は百代の過客にして今年度は、教育行政、特に、金田町地域づくり振興計画に基づく「まちづくり人づくり事業」の一環であります「ふれあいふるさと塾」の件、そして庁舎の鉦害復旧工事をはじめとして、たくさんの方が山積みされています。しかし、これらの諸問題を慎重審議し、実現、実施の方向にもっていくことが、わたしたちに課せられた責務と想っています。「一年の計は元日にあり」と申します。今年も金田町のより一層の発展のため、わたしたち一同ががんばりますので、町民のみなさまの率直なご意見をぜひお寄せ下さい。また、傍聴などを通じての町議会に対するご理解とご支援をお願い致します。

行きかう人も亦旅人なり」と言った頃、地上の人々は極めて緩やかに生活していたと思われまふ。しかし産業革命による急速な工業化と貨幣経済の波によって人類の動きは急なものとなり、精神の動きも速度と変化を加えてきたことは間違いありません。こうして「時間の質」も確実に変わっていると考えられます。

「明けましておめでとう」と申し上げるお祝いの言葉の内容も毎年異なった意味を持つに違いありません。今迄の一年間を顧みしても、湾岸戦争、ソ連体制の崩壊等々、激動の変化は全く予想も出来なかつた事でした。同様に新しく迎える一九九二年もまた、予想をはるかに超える年になることではありません。

しかし、いかに変わる世の中であろうとも人間の本性そのものは世の中の変化と同じ速度で変わってゆくであろうとは思われまふ。変わらぬ人間性が変わってゆく世の中とどう関わって生きるか? ここに新たな教育の命題があります。

学校教育と家庭教育の問題。学校五日制や学童保育、生活指導、学力向上への要求、進学と塾教育との関係。今後いよいよ期待される人生八十年時代に対処するための社会教育の分野も広まるばかりで主体的思考行動の必要と共に老人の対処、青少年対策、産業・職業・技術教育、更に崩壊家庭や出生率低下現象への解決策等々、人が豊かに生きる為はどうすればよいのでしょうか。衣食住とそれらを支える金さえあれば、という粗朴な考えは既に行きつまずりつつある現状です。

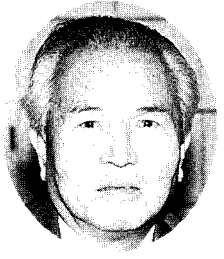
このことは私共の金田町においても同様で、本当に国際人として通用する知性、徳性、体力を備えた実践力を持つ町民を育て自分も又そうなるうとするこそみんなの願いであります。

彦山川、中元寺川、泌川三流の合う豊かな農地に恵まれ弥生時代からの稲作に近世では石炭採掘と運搬の発達で下田川地域の中心的位置を占めていた故郷も経済、交通、産業の変遷につれてちくじ生彩を失い将来への展望を模索して参りました。その結果われらの祖国が第二次大戦で敗れて後、再生を期したのが平和国家、文化国家の原則であっ

たように、郷土金田の再起も又この原理に立つ以外にないであろうと確信致します。即ち町政の基礎として、「人づくり」が挙げられるゆえんであります。今川原に春は菜の花、秋はコスモス揺らぎ日王の林に若木が伸び自然の生命が息吹き初め体育館や文化施設、小学校現場においても青春の血潮を燃やして若者達が新時代へ向けて活動する姿が見え始めたのは頼もしい限りです。「生涯稽古」という中世芸能の概念は、今「生涯学習」として文化的生命の基礎として再生しようとしています。まさに「初心忘るべからず」と提唱した先人の教えをかみしめながら新しい年の始めにあたって覚悟を固めますと共に皆様の御多幸を祈念致します。

新しい希望と決意をもって

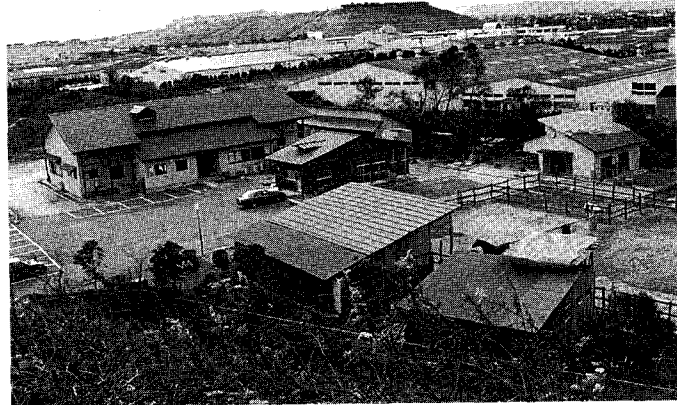
まちづくりプロジェクトチーム会長 藤林 俊信



あけましておめでとうございませう。皆さま方にはさぞかし新しい希望と決意を持ってこ

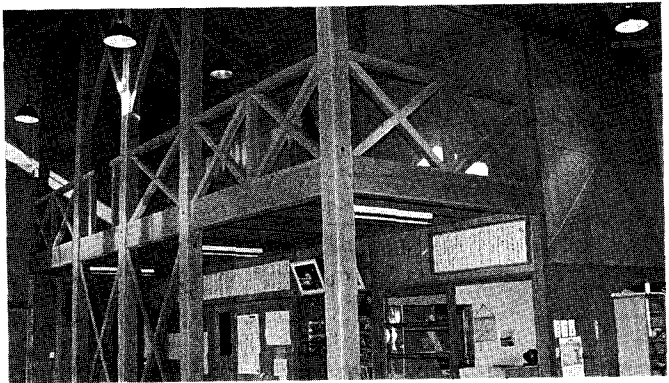
《ふれあいふるさと塾》 具体化へ

先月号でお知らせしましたように、ふれあいふるさと塾の具体化に向けて検討しています。まちづくりプロジェクトチーム(藤林俊信会長他30名)は、庄内町の生活体験学校(写真下)や、熊本県小国町などの先進地視察を行いました。



この庄内町生活体験学校は「自炊による「通学合宿」施設で、間もなく4周年を迎え、最近では子供の参加に伴い、膨らむ施設運営の

又この事業計画の核となる「ふるさとふれあい塾」の建設が本年末には着工の運びになる予定でございますが、これの運営にあたっては、たくさんの方のボランティアの方々のご協力をお願いしなければなりません。住みつけたい町、住んでみたい町、そんな金田町になるためには、行政と町



仕事を行政ではなく地域の手で補おうと母親の参加も急増しています。

民が一体となった取組みがなされなければなりません。皆さま方には今年もご健勝にてご家運のご繁栄のためご尽力されますよう祈念いたしますと共に、町が進めております、この新しいまちづくりに、深いご理解と温いご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご祝詞といたします。

1992年(平成4年) 1月(睦月)

ごあんない

(見やすいところに貼ってお使い下さい)

日	曜日	時 間	場 所	催 し も の ・ 行 事	問 合 せ 先	ご家庭での予定	備 考
1	水	: ~ :		元旦			元旦配達出発式 消費税の確定申告(～3/31)
2	木	: ~ :					
3	金	: ~ :					
4	土	: ~ :		役場仕事始め			
5	日	: ~ :					
6	月	: ~ :					小寒
7	火	: ~ :					
8	水	: ~ :	金田小学校講堂 金田中学校体育館	三学期始業式	金田小学校 金田中学校		
9	木	: ~ :	金田中学校	3年生実力テスト	金田中学校		
10	金	: ~ :		年末年始交通安全県民運動最終日	総務課庶務係		消費者モニター募集(～2/15公取委) 十日えびす 110番の日
11	⊕	: ~ :		土曜閉庁			はたちの献血キャンペーン
12	日	9:30 ~ :	糸田町民グラウンド	下田川四ヶ町連合消防出初式	総務課庶務係		
13	月	: ~ :	金田小学校	三学期給食開始	金田小学校		
14	火	: ~ :					
15	水	10:30 ~ :	総合会館	成人式(午前10時受付)	社会教育課		成人の日
16	木	: ~ :					
17	金	10:00 ~ 11:00	役場二階集会室	乳児相談	福祉課環境衛生係		世界青年の船(～3/13)
18	土	: ~ :					
19	日	8:30 ~ :	赤池町民グラウンド	田川郡マラソン大会	社会教育課		
20	月	: ~ :					大寒
21	火	: ~ :					
22	水	: ~ :	役場二階集会室	心配ごと相談	福祉課福祉係		
23	木	: ~ :					
24	金	: ~ :		給食記念日(訪問給食)	金田小学校		全国学校給食週間
25	⊕	: ~ :	金田中学校	土曜閉庁 3年生期末考査(～28)	金田中学校		
26	日	: ~ :					文化財防火デー 国民体育大会冬期大会(～29)
27	月	: ~ :					
28	火	: ~ :					
29	水	13:30 ~ 14:00	役場二階集会室	1才6ヶ月検診	福祉課環境衛生係		
30	木	: ~ :					私立高校入試開始(～2月上旬)
31	金	: ~ :	金田小学校	1月末大掃除	金田小学校		平成3年度給与支払報告書提出〆切

まちづくりプロジェクトチームふれあいふるさと塾 イメージアップなどの実施計画づくり

※ ⊕は役場が休みの土曜日(土曜閉庁)です。備考欄の月間、旬間、週間はそれぞれ一ヶ月間、十日間、一週間をとうして実施されます。

第四回 金田町少年の主張大会 ⑮ 地球は今



金田中学校二年 坂

口 かおり

地球は今、死への道を歩んでいます。原因はオゾン層の破壊、資源のむだ使い、海や川の汚れなどあげればきりがなくいろいろあります。まず、オゾン層について説明したいと思えます。地球を守っているオゾンがフロンガスという有害なガスで破壊されているというのです。外にいて、真黒に陽に焼けたとします。昔だったら健康的などと言われた喜ばれていました。今では、オゾン層の破壊により地球上にふりそそぐ紫外線の量が増え過ぎてしまい、その結果、皮膚ガンという病気になることもあるそうです。フロンガスというのは、スプレーなどに含まれていて、自分一人ぐらいと思っ

て使っていると、それがばく大な量になって地球を破壊していくのです。外国では、フロンガスが禁止になっているようですが、日本ではまだ禁止になっていないようです。禁止されなくてもやる努力を一人ひとりがしていけばいいと思えますが、それがなかなかできません。だから、ぜひ日本でもフロンガスの使用を禁止してほしいと思えます。次に、最近、物が豊富にあるからどんどん使い過ぎるということがあります。例をあげてみると、おはしがあるのにわざわざ「わりばし」を使ったり、お茶がこぼれたらふきんでふけばいいのに「ティッシュ」をどんどん使ったり、リゾートホテル計画のために、山を切り開いたりなどです。わりばしは木からできています。ティッシュも木からできています。雨が降ったら木が地下水をためてくれたりしますが、木を倒したら、まず洪水がおこります。そして、酸素も少なくなり

ます。木を切るの簡単です。しかし、一本の木を育てるには、何十年もの月日がかかります。種が落ち、やがて芽が出て、すくすくと成長して、そのうち花が咲き実もなることでしょう。こんな年月を経て、やっと大きくなった木をあっという間に次から次へと切ってしまうっていいのでしょうか。そんなある日、私の耳にこんなことが聞こえてきました。最近、木が大変減っているある町では、木を切る数が制限されているそうです。そして、さらに月に何度か家庭から出る牛乳パックや新聞紙の回収が行なわれているという内容でした。そして集められた牛乳パックや新聞紙はトイレットペーパーになるそうです。私はこれだと思いました。牛乳パックや新聞紙は毎日、目にするものです。それが人間の役に立つなんて、思いもしませんでした。そこで私は牛乳パックを集めることにしました。新聞は母がためていました。やがて牛乳パックは十をこえました。しかし、どこに行けばトイレットペーパーになるのかけんとうもつきませんでした。そして結局牛乳パック

は捨てました。母ためていた新聞は、子供会の廃品回収に出しました。とうとう私は何もできなせんでした。いくら口では言っても実行しなければ同じ事です。このままでは木が死んでいくばかりです。木がなくなると困るのは私達です。いいえ、この地球上に生きているすべての生き物が困るのです。ぜったい緑は必要なのです。緑破壊反対運動などがこの近くにあったら、これからは自分から進んでぜひ出席したいと思えます。他にも私たちに出来る事が何かあると思えます。真剣に考えて実行して、地球を守っていかねばならないときだと私は思えます。

感想

田中教育長

環境(人をとりまく周囲)によって発生した人間が、今、自分を生み育ててくれた地球環境を破壊しようとしているという、さしせまった危機的な状態を、例をあげて説明しているところは力強く、人に訴えることが出来ると思われまます。なぜ、こんな危険な状態になったのかということについて、あなたは「資源のむだ使い」であると論じています。確かにその通りで

友のため言おう

「やめる」の一言を

金田中三年 天賀光広
(神崎大橋西側にこの標語の看板を設置しています)

第四回 金田町少年の主張大会 ⑯ 自然破壊について



金田中学校三年 森

森

真

咲

わざわざ花だんを造らなくとも四季の草花が豊富に見られたという。遠くのものもきれいな緑色に見え、木や草花はいきいきと咲いているという。

今世の中は緑の使い過ぎだと思える。このままでは、何十年か後には緑のない国になってしまいかもしれない。私達のせいたくなく、しのために、家や道路を造るために、山が削られ木が切られていく。都市が発展すればするほど、あたりは大きなビルばかりが立ち並び、道路がきれいにアスファルトされる。そのためにたくさん緑を犠牲にしなくてはならない。

日本だけではない。世界中の国が緑をなくしつつある。本当にこのままでもいいのだろうか。もっと節約できるところは節約して大切な緑を守っていかねければならない。今、私達はきれいな空気のもとで楽しくくらししているが、緑がなくなりあとで泣くのは自然をこわしていった人間自身である。人間だけではない。野山に住む動物達にも影響を及ぼす。「森真咲」さんは、父、森幸男さん、母、恵子さんの長女として昭和51年5月9日生れの中学三年生。二人兄妹で、大字金田八五一番地(堀川団地)に住んでいます。

人間の欲望から戦争が始まり、人が死んでいき、緑がなくなっていく。人間の欲望からビルが建ち、家が建ち道路ができるため、木が切り倒され、山が削られていく。今では、世界中のあらゆる所で自然がおかされていく。今、確実に地球の破壊が近づいている。戦争のために智慧を働かせるなら、戦争のためにばく大なお金を使うなら、戦争のために尊い命を捨てるなら、それを地球と生命を

青少年健全育成標語入選作 誤るな

今人生の分岐点

金田中三年 田中祐行
(金田駅横にこの標語の看板を設置しています)

守るために使ってほしい。私達は、川にきれいな水が流れ、緑のきれいな山や森林に動物たちがたくさん住んでいて、戦争のない平和な世界を望んでいるのです。そのためには、一人ひとりが身近な所から考え直し、みんなの力で平和で住みよい国を守らなくてはならない。まず、心底から平和にしていこうとするきれいな心を持たなければいけないと思えます。(平成3年2月4日総合会館での大会にて発表されたものです)

感想

田中教育長

「人間の欲望から戦争が始まり人が死んでいき、緑がなくなっていく。人間の欲望からビルが建ち、家が建ち道路ができるため、世界中の自然がおかされ、確実に地球の破壊が近づいている。」と意見発表の中にありました。では、あな

たの言う「人間の欲望」というのは、いったい何でしようか。人間に欲望があればよいのでしょうか。逆に人間に欲望があるから人間は生きてきたとも考えられるではありませんか。豊かで平和な世を作りたいというのもまた人間の欲望ではないでしょうか。イラク戦争だって、アメリカ大統領は「イラクの侵略をやめさせ世界の平和を確立するための武力行使(戦争)」だと言っています。また「自然」と言っても、人間もまた自然に生じた動物の一種です。「身近なところから考え直し」という結びは大切なところでしょうが、身近な何を(例えば「木を」)どう「切らないために」考え直すか(どんな方法があるのか)それを考えてほしいものです。そこから本当の学習が始まるのではないのでしょうか。



第四回 金田町少年の主張大会⑱ 豊かな国ニッポン

金田中学校三年 天 あま



現在、大国日本は「豊かな国」と言われています。

しかし、僕がよく思うのは、その「豊かな国」は本当の意味の「豊かな国」なのでしょうか。確かに「経済大国」といわれると「金銭的」に見れば「豊か」なのかもしれません。ところが、ふだんTV・新聞などで報道されるさまざまな事件・事故にみるかぎり、人間的に心の「豊か」な日本人が何人いるでしょうか。「心のまじさ」これは「経済大国日本」の直面した問題ではないでしょうか。そして、これは実際、自分達の身の回りで起きていることなのです。

例えば近頃では、保険金目当てに自分の娘を殺害したという、聞くも悲惨な事件がありました。「自分の子をねたむ親なんかいない」と言われていた世の中で、自分の子を殺してしまう親がいるという事実は、日本中の話題となりました。しかし、必ずしも僕は自分達も例外ではないと思うのです。

近頃、中学校で「身障者に対する差別」が問題となりました。何人かの生徒が身障者に対して、暴言・悪口をはいたり、石などを投げつけていると言っています。僕も正直言って、その身障者の方を見て「いい印象」はもてませんでした。しかし、病気のだから向うが悪いわけではありません。それなのに、こういうふう

に思ってしまうのはなぜだろう。自分には何か欠けているのではないだろうか。何か大切な心を無くしてはいないだろうか、と考えました。

賀 が 光 みつ 広 ひろ

その時、僕はそれが「心のまじさ」ではないだろうかと考えた。その時、僕はそれが「心のまじさ」ではないだろうかと考えた。その時、僕はそれが「心のまじさ」ではないだろうかと考えた。

か。この「豊かな国日本」が増えてきたさまざまな事件の裏にある「豊かな日本人」の「心のまじさ」。これは「相手のことを考えて行動する」ということで解決できると思います。これが実現できれば、日本は「真に一人ひとりの心が豊かである」そんな国になれるのではないのでしょうか。そうなったとき、本当の「豊かな国日本」が実現する



かさが「金と物が多い」というだけの経済大国で、その根底には「心のまじさ」がある。それと、そのことから自分自身の心を眺めたという追究のしかたは実に見事です。この意見発表を聴いていて私もその「身障者」の人の事が思いあたり、何とも恥ずかしい気持ちになりました。私は別にその人に石を投げたり、からかったりした訳ではありません。しかし、心の底には、「俺は健康だから」という、うぬぼれがわかったからです。人間が生長するとは、このように身長や体重がふえるということではなくて、「心の生長」を言うのであって、心の心が見える」という事です。鎌倉時代の名僧、道元禅師も「仏道を習うというは自己を習うなり」と書きのこしています。

感想

田中教育長

身近な中学校での身障者に対するいじめの問題に目を付け、同時に今の日本の豊

青少年健全育成標語入選作
あいさつは
人と人とを
つなげるパイプ
金田中二年 和田 浩
(神田橋東側にこの標語の看板を設置しています)